

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090500230		
法人名	特定非営利活動法人コスモス		
事業所名	グループホーム コスモス ハーモニー		
所在地	群馬県太田市西野谷町95-1		
自己評価作成日	平成28年4月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成28年5月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

建物は全体的にヨーロッパを思わせる雰囲気で作られている。天井は解放感と採光がとれるよう高さを取り、全体に白を基調にし明るい色合いになっている。庭へはバリアフリーで自由に行き来でき、四季折々の花が咲き、スタッフと一緒に水やりや野菜作り果物の収穫など共同作業を楽しむ事で、季節感を感じることが出来る。また、調理や洗濯など出来る事は可能な限り参加していくことで、能力を發揮していただくようつとめている。天気の良い日は散歩へ出かけたり、保育園の運動会を見に行ったり、地域の小学生が遊びに来てくれるなど、地域との交流も大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念を朝の申し送り時に唱和し、どう理念をその日の介護に体現していくか、職員一人ひとりが理念に沿った目標を掲げ、夕方の引継ぎ時には目標への達成状況を振り返っている。具体的には、理念の「高齢者の方々が自立した日常生活を長く営める」ためには、入居者と一緒に冷蔵庫をのぞきながら、昼食は何を作ろうかと相談し、調理の下拵えや味見、盛り付けなどの手伝いをお願いし、人の役に立っているという自尊心を保ち、日々の生活が張り合いを持って送れるよう支援している。また、朝の申し送り時には職員が気づいたことを話し合い、良いことは即刻取り入れ、更に良い方向に行くよう話し合いを重ねている。その他、年2回個人面談を行い、働きやすい職場・何でも言える環境づくりを行うことで、職員の明るい態度が利用者に反映し、利用者が笑顔で日々の生活が送れるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時に、理念を唱和し確認している。理念が毎日の介護に繁栄できるよう実践している。	理念を朝の申し送り時に唱和し、その日の介護にどう理念を体現していくか、職員一人ひとりが理念に沿った目標を掲げ、夕方の引継ぎ時に目標への達成状況を振り返っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	習慣としている散歩時には、近所の方々と挨拶や会話を交わすなどしている。地域行事、町内清掃など利用者様と共に参加し交流を深めている。	職員による道路清掃の他、小学生や幼稚園児との交流、自治会主催の花見や夏祭りに利用者と共に参加している。また、入居前から加入していた地域の年中行事である「土用念仏」の会に参加し、友人・知人と歓談するなど、地域との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、近隣の小学生が総合学習で来訪している。その際、ケアマネージャーから、生徒や先生に認知症についての症状や支援に気を付けることなどを説明し、その後、実際に交流の場を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月毎に同敷地内にある小規模多機能事業所と合同で開催している。利用者様のご家族、区長、民生委員、市職員等に参加して頂き、意見交換しサービス向上に活かしている。又、地域行事や側溝掃除、公民館掃除などにも参加して、地域の方との交流が持てるよう努めている。	区長、民生委員、家族・利用者代表が参加し、2ヶ月に1回開催している。議事録を家族に送付し、会議の内容や事業所の活動状況を伝えている。意見交換では「リハビリをもっと行ってもらいたい」等の意見があり、そうした家族の要望を取り入れた事業所運営に取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から、運営などに関して、わからない事をその都度、電話や相談をしている。	申請書類を持参した際、運営等に関し不明な点や判断の困難な事例について市の指導を得ると共に、空き室状況等を地域包括支援センターに連絡し、協力関係を築くよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は、身体拘束をしないケアについて勉強会をおこなっている。また、外部研修にも参加している。職員の見守りが手薄な時間帯は安全確保のため玄関を施錠している。	身体拘束に関する研修会受講後、勉強会を開き身体拘束のない支援に取り組んでいる。現在、入居者が無断外出をすることから、職員の見守りが手薄となる時間帯は、安全確保の面から玄関を施錠している。	無断外出の原因を把握・分析し、課題解決を話し合い、安全に配慮し、鍵をかけず、自由な暮らしを支える支援について取り組まれるよう期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については、勉強会を通じ、職員一同で防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について、勉強会で学習し、職員が理解できるよう繰り返し勉強している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、丁寧に説明するとともに、疑問やどのような支援を希望しているかなどについても話し合い、理解と納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時や運営推進会議では、近況報告を行い、意見、要望などを聞くようにしている。ケアプラン説明時にも、困っていることはないか等希望を聞くように心掛けている。	毎月「お便り」で利用者の生活や受診状況を伝え、面会時には「何か困ったことはありませんか」と問いかけ、意見や希望を聞く雰囲気づくりに努めている。そうしたなか、家族からの「もっと外に連れ出して欲しい」との要望に、散歩や家庭菜園の収穫の機会づくりを行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は、申し送り時、勉強会などで、日ごろ気づいた事や提案など話あっている。年2回の個人面談で意見をきいている。	朝の申し送り時に、職員が気づいたことを話し合い、良いことを即刻とりいれ更に良い方向に行くよう、話し合いを重ねている。また、年2回個人面談を行い、何でも言える環境の働きやすい職場づくりを行い、職員の明るい態度が利用者へ反映し、利用者が笑顔で日々生活できるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員個々の勤務実績状況を把握し、努力を認め給与水準などに反映している。また、状況に合わせ、個々の働きやすい職場環境の整備にも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修にも参加できるよう、努めている。また、その研修がケアにつながるよう、勉強会で発表し職員全体が共有できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会に参加し、交流する機会を作り、サービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に、施設を見学して頂いたり、本人にお会いし不安や要望を聞き取り、安心してサービスを導入できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	導入前に、家族の要望や困っている事をよく聞き取りし、サービスの提供に役立てている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームでのサービスが適切か、他のサービスが適切かを見極め、随時十分に検討します。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人を介護される一方的な立場におかず、出来る事は一緒に行い、人生の先輩として、色々な事を教えて頂きながらゆったりと寄り添い支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時には、日々の様子をお伝えし、情報を共有し一緒にケアについて考え、話し合っ支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御主人様や娘様と外出、外食されたり、庭の草むしり等されてきたりしている。毎週、曜日を決めて娘様が来所され楽しく過ごされている。	入居前から参加していた地域の年中行事である「土用念仏」や自治会主催の花見・夏祭りに参加することで、友人や知人と歓談できる機会としている。家族と墓参りや美容院に行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、楽しい日々が過ごせるよう、席順などにも配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ、いつでも相談にのれるよう、努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から、本人の思いや意向の把握に努めている。思いを伝えるのが困難な利用者様には、生活歴やご家族と相談しながら、日常の介護に努めている。	日常の介護のなかで、利用者の言動や表情から思いや意向の把握に努め、面会時には家族から趣味等の情報を得て支援している。役にたちたいと願う人には調理や味見・盛り付けなどを手伝ってもらい、張り合いをもって暮らせるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のアセスメントで今までの生活歴やサービス利用の経過を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の心身状態・有する能力の現状を把握し、職員全体で共有し、その人に合った支援が出来る様に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は本人家族や関係者の意見を聞きながら、介護プランを作成している。モニタリングは、三か月に一度、担当職員が継続、中止、変更等の見直しを行っている。	前回の外部評価課題を検討し、全体の評価から項目ごとに評価する方法に変更し、担当スタッフがモニタリングを行っている。職員会議で、ニーズの充足度・今後の対応を検討し、ケアマネージャーが次のケアプランを作成している。毎日の生活記録には、サービス内容の番号を記載してプランに沿った支援を意識して行えるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践などは記録に残し、毎日の申し送り時に意見を出してもらい、実践につなげている。また、介護計画の見直しにも生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズを伺い、可能な限り柔軟に対応できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方や、地域の学童クラブ、保育園、小学校の総合学習などを通じ、地域の人たちとの交流を通じ、豊かな暮らしを楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人と家族の希望を聞き、それまでのかかりつけ医を受診する事もできる。毎月一回協力医により定期往診している。往診結果については、お便りや電話等で情報を共有出来るように支援している。	契約時に、協力医について説明し、本人と家族が希望するかかりつけ医を受診している。協力医は月1回往診し、発熱等の場合は随時往診している。眼科や歯科医等の受診には、症状等を把握している職員が家族に同伴して説明し、治療の方法は家族の判断に任せている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一回、訪問看護を行っている。その際、しっかりとコミュニケーションを図り、相談できる環境にある。利用者のケアの方法についても丁寧に指導してもらえる為、職員も安心して介護に関わる事が出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院との連携を図りつつ、利用者と家族の希望を大切に早期に退院できるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期については、文書を作成し、契約時に説明を行い用紙に記入してもらっている。重度化し、終末期が近付いた段階で、主治医から説明をしてもらい意向を再度、確認している。	契約時に、重度化や終末期に向けた方針を説明している。重度化した場合は、医師から家族に治療方針を説明し、「看取りについての確認書」を家族と取り交わし、家族の意向に添って、事業所で看取りを行うこととしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応や事故発生時の応急手当等について、勉強会で確認し、AEDについても勉強している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導のもと、年に2回の避難訓練を実施している。運営推進会議を通じて、近隣の住民にも協力を依頼している。	敷地内にある3施設合同で、火災発生場所を持ち回りし、年2回の避難訓練を行っている。1回は夜間を想定し、消防署の指導を受け実施している。地元の人達には、避難した利用者の見守りをお願いしている。米や飲料水・缶詰の備蓄を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	申し送り時には、利用者様の名前を声に出さず指示して報告し、ホールにいる利用者様には聞こえないように注意している。声掛けや言葉使いに常に配慮している。	理念にある「個人個人の尊厳を尊重する」ことについて職員個々が考え、利用者一人ひとりの価値観を大切に、トイレ誘導などは誇りを傷つけない声かけを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望に合わせてケアする事を心掛けている。日常の会話の中で、本人の望んでいる事を汲み取り、家族や職員間で相談しながら実現できるよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切に、希望を聞きながら外出したりと希望にそった支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみについては、理容師が来所しヘアカットを行ったり、馴染みの美容室へ行き、パーマなどを楽しんでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえや調理、味見など、出来る限り参加している。中庭で野菜を作り一緒に収穫し、食事に提供している。	利用者と料理の本を見ながら何が食べたいかを聞いたり、一緒に冷蔵庫のなかを覗き、何を作るかを話し合ったりして、調理している。利用者は、野菜の下拵えや味見、盛り付けなどを手伝っている。月2回「お刺身の日」を設けたり、中庭の野菜をメニューに加えたり等、食事の時間がくるのを楽しみにできるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康状態に応じ、主治医や家族、本人とも相談しながら食事量・形態を決めている。また、水分量は必要に応じチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人に合った口腔ケアが出来るよう、歯科医からの指導の下、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表をもとに、一人一人に合わせた支援を行っている。定期的に声掛けを行い、出来るだけトイレで排泄出来る様に努めている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、自尊心に配慮した声かけを行い、寝たきりの方を除き全利用者がトイレでの排泄を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便を促す為、水分をしっかり摂取して頂いたり、体操を日課としている。必要に応じて、主治医と相談しながらケアに努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週3回行っている。入浴剤や季節のゆず湯などで、ゆっくり入浴している。	週3回、午前中の中の入浴を行っている。重度化に伴いリフトを利用した入浴も行い、入居前2年間入浴できなかった利用者がリフトで入浴した事例もある。顔に湯がかかるので入浴を嫌う人にはシャワーハットを使用したり、気のあった人同士で入浴したり等、入浴をたのしめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間やお昼寝の時間は一人一人の希望や体調に合わせて決めている。夜間、気持ちよく休んで頂ける様、日中は適度に運動やレクリエーションなどを行い、活動量を高めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は一人一人が内服薬を理解し、薬の内容が現状とあっているのか、その都度、主治医と相談しながら、過剰な服薬がないよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張りや喜びのある日々が過ごせるよう、家族や本人から生活歴や楽しみなどを教えて頂きながら、編み物や音楽を楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、なるべく全員が散歩に出かけている。季節に合わせて車で花見に行っている。また、おやつ外食など利用者様が楽しんで頂けるよう支援している。	天気の良い日は、車椅子利用者も含め全員で散歩、家庭菜園での収穫、季節毎の外出や外食行事、家族との外出等、外に出かける機会を多くもつよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は、お金を管理している方はいませんが、希望に応じて本人が管理する事も可能。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や年賀状のやり取りもあり、素敵な絵手紙が届く。また、希望時は家族などへの電話もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のホールは、大きなガラス戸で季節の花を楽しむ事ができる。玄関、ホール内にも季節の花を飾っている。また、花見や外出先で撮った写真をホール内に掲示している。	壁や天井は白色で統一し、玄関や食堂のテーブルに季節の花を飾っている。専門業者が毎月天井のすす払いや床のワックス掛けを行い、清潔な環境維持に努めている。外出行事の写真やきり絵を飾り、食後くつろげるようソファを配置する等居心地良く過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の配置を工夫し、それぞれがよい関係を構築できるよう配置している。また、ホールにはソファもあり気の合った利用者様同士が思い思いに楽しく過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が居心地良く過ごせるように、ご自身が持ち込まれた使い慣れたものなどを置かれ心地よい居室作りに努めている。	仏壇やテーブル等の家具は、家族と利用者が自由に配置し、家族の写真を飾る等一人ひとりが穏やかに過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内には手すりを配置し、自力歩行が出来る様にしている。また、居室ごとに壁紙やカーテンの模様を変え、自分らしい部屋作りを楽しんでもらい、それぞれの雰囲気の違いの為、間違っても他の部屋に入らないよう工夫されている。		